

新しいTOEFLと新しいSAT

帰国子女大学入試で大きくモノを言うTOEFLとSATですが、ともに比較的最近、テスト形式に大きな変更があったので、それぞれのテストの概要について簡単にお話ししていきます。

TOEFLとは？

帰国子女卒の入試において、ほとんどの大学でスコア提出の求められるTOEFLですが、これは本来、アメリカの大学が留学生を受け入れる際の英語力の指標として開発されたものです。多くの人が見落としているのですが、実はこの、ももとの意義、を考えると、TOEFL対策の学習を進めるポイントがあります。

ご存じの方も多いかと思いますが、試験はReading、Listening、Speaking、Writingの4つのセクションに分かれ、それぞれが30点満点の合計120点満点で評価されます。

現地校のレギュラークラスで、テキストの読みこなしなどにまったく苦勞を伴わないレベルまで英語力の上がっている人にとって、TOEFLの英語そのものはさして難度の高いものとは感じられないかもしれません。しかし、TOEFLの中には日常求められることのないような特殊なタスクが含まれているため、優秀なネイティブスピーカーであったとしても、きちんとした準備なしに高得点することは難しいという側面があります。逆に、それほどの英語力でなかったとしても、しっかりと対策をすればかなりスコアを上げていくことが可能です。

TOEFL New Formatとは？

昨年の7月にTOEFLのテスト形式がリニューアルされましたが、各セクションの設問数が減らされ受験者の負担軽減が図られたものの、内容そのものに大きな変更はありませんでした。

唯一実質的な変化があったのがWritingセクションで、「20分で講義の内容をまとめる」「30分で300語+αのエッセイ」という2つの設問のうち、後者が「アカデミックなディスカッションに参加して、10分で100語+αの意見を述べる」というものへと変わりました。アカデミックなコンテキストで通用するまとまった英文を書く、という点では変わりありませんが、語数が大幅に減り、形式も変わったので、やはりこれまでとは異なる対応をする必要があります。

現在のTOEFLの問題については、テスト実施機関であるETSのページでごらんいただくことができます。

TOEFL対策

具体的にTOEFLに対してどのように対策していくかですが、これはもちろんそれぞれの生徒の英語力、特にそれぞれのセクションの得手不得手などによって大きく違ってきます。一つの目安として、Readingで課される文章がどのぐらいスラスラ読めるかを確かめているといいかもしれません。多少なりともひっかかる人は、語彙・文法からきちんと洗い直し、最後に「設問対策」へと進むといいですね。設問パターンごとの対策は最後にスコアを大きく伸ばすのに有効ですが、基礎力がなければそれもあまり効果的に活用することができません。可能であれば、早い時期に一度実際に受験してみて、そのスコアを見ながら対策を考えるのがいいですね。もちろんスコアを持ち寄ってのご相談は承っています。

SATとは？

SATは、アメリカの大学への進学を希望する高校生が受験し、出願の際にスコアを提出するテストで、ごく大雑把に言えば、日本の大学入学共通テストに近い存在です。それを帰国子女卒入試において日本の大学が利用しているわけですが、実はSATのスコア提出を求めるのは、一部のいわ

ゆる難関大学に限られています。つまり、受けるからには高得点が求められるのがSATです。

EnglishとMathのセクションに分かれていて、それぞれ800点満点、総合で1,600点満点の試験です。Englishの部分はTOEFLと比べて難度が高く、文章も大学のテキストのようなものだけでなく、古典や韻文、演説なども含まれ、バラエティに富んでいます。特に語彙レベルについては、通常の現地校の学習だけでカバーしきれないものも多く、計画的な準備が必要です。一方Mathの部分は、日本の大学入試の感覚からするときわめて平易に感じますが、中には多少難度の高い問題も含まれているので、やはり確実に高得点を取るには、入念な対策が望ましいと言えます。

New SATとは？

2024年3月にテスト形式の変更が行われましたが、こちらはフォーマットから個々の設問にいたるまで抜本的なリニューアルでした。表面的には、紙ベースから端末上で行う試験に替わったこと、問題数が減って所要時間が短縮されたことが目立ちますが、Adaptiveと呼ばれる「前半の成績に応じて後半に課される問題が決まる」形式も注意を要します。英語・数学とも、後半で難度の高い問題へ誘導されるレベルをクリアする」というのが、最初の段階での学習の目安になります。

受験者にとって最も影響のある変化は、英語(Reading & Writing)の設問形式の変更ではないかと思われます。かつての「長文(600-700語)に対して小問10題ほどが施された形式(全体で大問5つ)」から、「短めの文章(30-150語)に対して1題のみが問われる形式(それがModule1、2各27題ずつ)」へと変わり、問題に取り組む際の戦略も、準備にあたっての戦略も大幅に異なるものになりました。

ただ、文章が短くなったこと、設問のパターンが固定されたことで、対策が立てやすくなったため、適切な準備ができればスコアを上げやすくなった、と言うことができます。今まで以上に、がんばった人が報われやすい形式になったわけです。

一方、数学分野については、フォーマットの変更はありましたが、出題の傾向などに大きな変化はありません。いちばん気を付けるべきは、過去問をさっと見て「これなら大丈夫」と高を括ってしまうことです。満点(800点)あるいはそれに準じるスコアを狙うなら、やはりきちんとした準備をすることが望ましいのは言うまでもありません。

現行のSATの問題は、テスト実施機関である [College Board](#) のページで見ていただくことができます。

SAT対策

Englishのセクションでは語彙力が分かれ目になることが予想されます。それと同時に、Standard Englishとして括られる文法中心の問題群を、「なんとなく」でなく論理的に解けるようにしておくことも効果的です。Mathのセクションでは、繰り返しになりますが、高を括らずきちんと準備することです。

どちらのセクションでも、地道に準備した人、適切な対策をした人が大幅にスコアを伸ばしています。

まとめ

帰国子女入試の成否のカギとなるTOEFL、SATについて、最近行われた形式変更の内容を紹介しつつ、対策について簡単に説明してきました。さらに具体的な対策、あるいは各大学合格に求められるスコアなどについては、個別にご相談ください。

(駿台ヒューストン校 大高仁志)

